越後のお父っつぁま

佐野藤三郎ってどんな人？

佐野藤三郎にまつわるエピソードを紹介

※参考：「まんが にいがた偉人伝 佐野藤三郎」

ちょっと福井へ行ってくる

昭和39年に発生した新潟地震で、亀田郷は大きな被害を受けました。亀田郷の被害と、昭和23年に福井で起きた大地震の被害が酷似していることを知った佐野さんは、復旧作業の最中、1人で福井へ向かいました。

そこで学んだ国の災害査定の知識を生かし、国や県へ粘り強く説明と陳情を繰り返したことで、親松排水機場が建設され、亀田郷は新潟地震以前よりも良い状態へと変わるのです。

したたかな武士

高度経済成長期に農地が売られて都市開発が進み、農業の衰退が不安視される中、佐野さんはむしろその活力を農業や亀田郷のために取り込もうとしていました。昭和を代表する作家・司馬遼太郎は、亀田郷を訪れて佐野さんに会い、「都市化の波に感傷的に反対することはすこしもなく むしろ現実をふまえ ときに利用したり 逆手にとったりして 亀田郷に理想的な農村地帯をつくりあげようとしている点 したたかな武士といえる」と評しました。

この男は「本物」

当時の中国の首相から「亀田郷の農業技術を学びたい」と要請された佐野さん。昭和54年、調査のため中国の三江平原を訪れました。国交が正常化したばかりで、現地の中国人技術者たちは日本人である佐野さんたちによそよそしい態度。そんな中、佐野さんが田んぼに入って稲を触り、中国人技術者たちに話しかけると、彼らの態度が一変。言葉が通じなくても行動で、農業に携わる者として佐野さんは「本物」だと認められたのでした。

新潟市の名誉市民を紹介

3人は昭和26年3月に名誉市民に選ばれました。

會津八一（あいづ やいち）

生：明治14年8月1日
没：昭和31年11月21日

昭和21年から新潟市に居住し、夕刊新潟社の社長を経て、新潟日報社社賓として社会文化面に貢献しました。東洋美術史、特に奈良美術に関する国内の権威として、その深い見識で学界に影響を与えました。また書家・歌人としても知られ、近代を代表する芸術家として高く評価されています。

※関連記事を5面に掲載

荻野久作（おぎの きゅうさく）

生：明治15年3月25日
没：昭和50年1月1日

明治42年に東京帝国大学医学部を卒業後、同大学産婦人科教室で研究を続け、明治45年に竹山病院産婦人科医長に就任。臨床の傍ら産婦人科の研究を続けました。研究は受胎に関するものが多く、50編を超える論文を記述しました。中でも、排卵期と受胎期に関する研究は画期的学説として著名であり、日本医学界の至宝ともいわれています。

澤田敬義（さわだ けいぎ）

生：明治6年12月3日
没：昭和27年2月7日

明治43年に新潟医学専門学校が創立された際、同校の内科学教授となり、大学昇格にも尽力しました。大正14年に新潟医科大学の学長に任命され、長年にわたり医学界に尽くしました。特に「つつが虫病」や新潟県の地方病に関する研究は、学界に大きな影響を与えました。優れた人格と学識経験で学生を育成し、優れた人材を輩出しました。

広告掲載の申し込みは(株)新潟日報メディアネット(☎025-383-8008)へ、1枠(7.3㎝×12.1㎝)163,000円(税込、制作料別途)。掲載した広告についての問い合わせは各広告主へ

新潟の発展に尽くした 佐野藤三郎

佐野藤三郎の主な経歴

- **大正12**（32歳）中蒲原郡石山村（現在の新潟市東区）中木戸で誕生
- **昭和30**（32歳）亀田郷土地改良区の理事長に就任。現在価格で約144億円に上る土地改良区の借金返済に奔走
- **昭和39**（40歳）新潟地震が発生。被災した農地の復興や、新たな排水機場の整備促進に力を注ぐ（昭和43年に親松排水機場が完成）
- **昭和50**（51歳）農村と都市部が共存した地域の発展に向けて、財団法人亀田郷地域センターを設立。理事長に就任
- **昭和51**（52歳）第一次亀田郷農民友好訪中団を組織し、団長として中国を訪問
- **昭和53**（54歳）第二次亀田郷訪中団の団長として北京を訪問。中国から「三江平原農業開発計画」への協力要請を受け、同計画を日本の国際協力事業とするよう奔走（平成14年に竜頭橋ダムが完成。三江平原の食料生産量は3・3倍へと増加）
- **昭和60**（62歳）日本海圏経済研究会を設立。ロシアや中国との国際交流促進のため、国際シンポジウムなどを積極的に開催
- **平成元**（65歳）「未来農業を考える会」を主宰。新潟の農業の将来に向けた、さまざまな構想・計画を立案
- **平成4**（68歳）第10回アジア・アフリカ賞受賞
- **平成6**（70歳）農林水産大臣賞（ダイヤモンド賞）を受賞。同日夜、くも膜下出血で倒れ、翌日逝去。正六位勲四等瑞宝章を受章

佐野さんのことをよく知る人物に話を聞きました。

亀田郷土地改良区
前理事長
杉本 克己さん

行動力があって気さくな人

佐野さんは32歳で亀田郷土地改良区の理事長に就任してから、類まれな行動力で地域をまとめ、時には国にも直接働きかけ、さまざまな事業を進めてきました。

理事長に就任してからの最初の仕事は、現在価格で約144億円にも上る借金の返済。佐野さんが大蔵省（現在の財務省）にいきなり支援を求めに行ったにもかかわらず、大蔵省の官僚はその真剣さに心を打たれ、力になってくれたそうです。その後、大蔵省で新しく農林担当になった官僚が佐野さんを訪れ、農家の現状を学び、夜は酒を酌み交わす「佐野学校」ができたというエピソードは、佐野さんの親しみやすい人柄をよく表していると思います。

私が佐野さんと出会ったのは23歳の時。第二次亀田郷農民友好訪中団として、当時52歳の佐野さんたちと中国へ行き、そこから親交を深めました。佐野さんは30歳も年が離れている私と「友だち」のように接してくれる気さくな人でした。

意見が引き継がれ新潟が発展することを願う

かつて、亀田郷は「芦沼」と呼ばれる泥深い田んぼが一面に広がり、農民たちは腰まで水に漬かりながら、大変な思いで稲作をするのが当たり前でした。その後、栗ノ木排水機場ができて、さらに佐野さんの尽力もあって親松排水機場が稼働すると、乾田化が進み、農業の生産性が向上しました。佐野さんの「自分の思いを実現させる行動力」のおかげで、今の田園風景があると思っています。また、都市化が進む現状を直視しながら、当時から「都市と農業の調和」に取り組まれた先見性と視野の広さには脱帽です。新しいことに積極的にチャレンジする姿を、私は見習ってきました。

佐野さんの行動力の源は、「農民だけでなく故郷新潟のあらゆる人々が幸せになれるように」という思いだったのだと感じています。佐野さんの意思が次の世代に引き継がれ、亀田郷、そして新潟がさらに発展することを願っています。

佐野藤三郎の人生をマンガで楽しく読んでみよう

佐野さんの一生を描いたマンガを、市内の図書館で貸し出しています。

問 ほんぽーと中央図書館（☎025-246-7700）

『まんが にいがた偉人伝 佐野藤三郎』
企画・監修：（公財）食の新潟国際賞財団
シナリオ：小林 裕和
マンガ作画：シャガラ
市内図書館所蔵数：21冊

亀田郷の歴史を学んだ小学生の声

両川小学校（江南区）　小野 櫻子さん

昨年、授業で昔の亀田郷のことについて学びました。排水機場ができる前は、胸くらいの高さまで水が増えることがあり、当時の農作業は想像できないほど大変だったと知りました。また、自分の家のある場所が、昔は水に漬かっていたと知ってびっくりしました。

今では家の近くに公園があって暮らしやすいこの地域が好きです。大人になっても、この地域で暮らしていきたいです。

問い合わせ・申し込みの際は電話番号のかけ間違いがないよう注意してください